

Ⅲ. 社会情勢の変化

1. カーボンニュートラル社会の実現に向けた動き

地球温暖化は地球規模の深刻な問題であり、早期に解決すべき喫緊の課題です。気候変動問題の解決と世界に誇る北海道の創造に向けて、北海道が有する豊かな自然や地域資源を利用した再生可能エネルギー、吸収源となる広大な森林などを最大限活用し、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進めるため、道では、2022年3月に「北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）」を改定するとともに、2023年3月に「北海道地球温暖化防止対策条例」を改正しました。2050年までに、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける北の大地「ゼロカーボン北海道」を実現し、道民が健康で快適に過ごすことができ、真に豊かで誇りを持てる社会を、次の世代につなげていきます。



イラスト: あいばゆう(第2回北のまんが大賞受賞者)

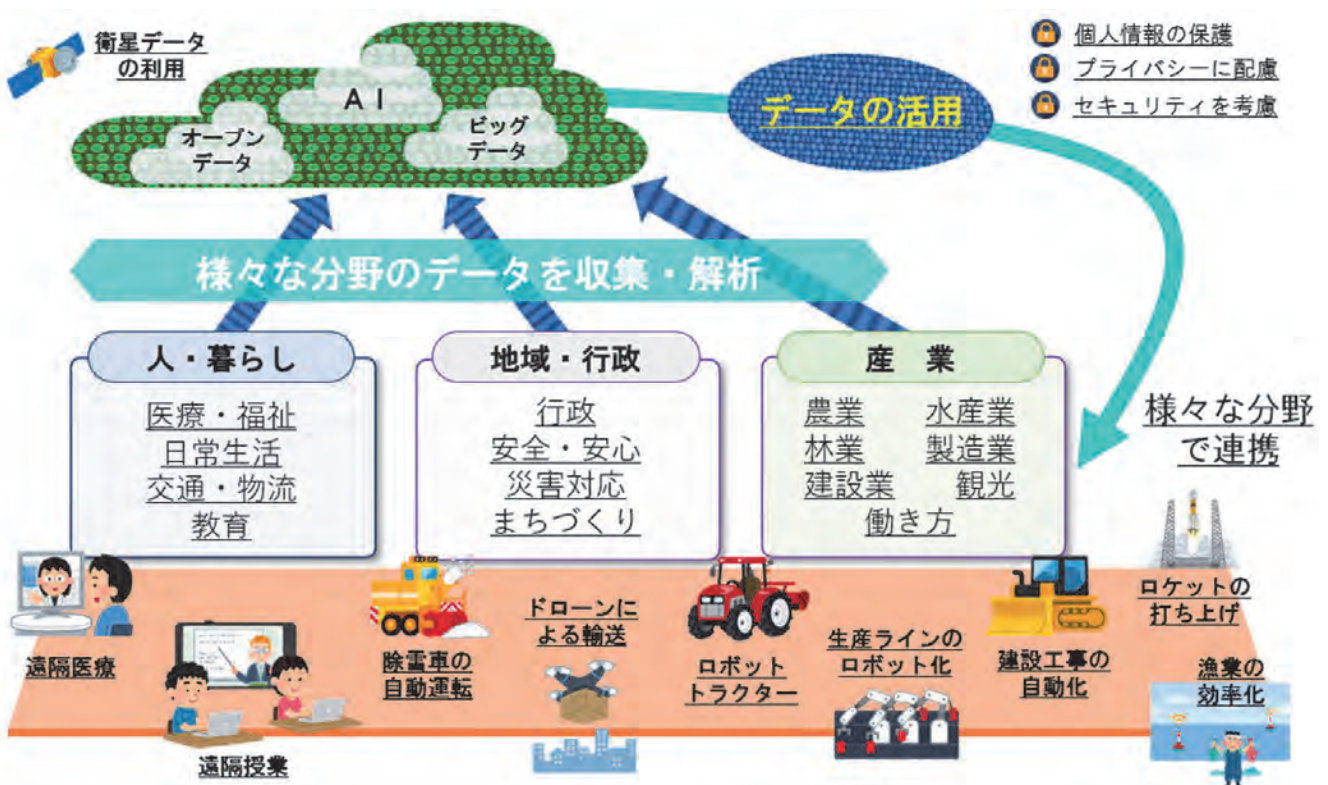
2. コロナ禍を踏まえた新たな生活様式の拡大

新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療現場だけでなく、飲食店等の営業時間短縮など経済にも大きな影響を及ぼしました。

一方で、こうした長期にわたる新型コロナウイルスへの対応の中で、これまで効率性や利便性を追求してきた密集・密接から、人との距離感や地域分散の重要性に気付かされるなど、国民の行動や価値観に変化をもたらしています。今後は、感染症対策と社会経済活動の両立が可能となる強靱な社会の構築はもとより、広域分散という北海道のハンディをリスク分散という新たな価値に転換し、産業や雇用、生活の場を創出していくとともに、デジタル・トランスフォーメーションやカーボンニュートラルの推進といった、コロナ以前への回帰にとどまらない新たな社会の実現に向けた取組を加速していく必要があります。

3. Society5.0社会の実現に向けた動き

道では、「未来技術を活用した活力にあふれる北海道」を目指し、2021年3月に「北海道Society5.0推進計画」を策定し、暮らしや産業活動などあらゆる場面で未来技術を活用し、直面する課題の解決と社会・産業の改革を進めることで、道民生活の質の向上、地域や産業の活性化の実現化に向けた取組を推進しています。社会資本においても、整備や維持管理にICTやAIなどの新技術を活用することで、工事や点検などの高度化・効率化を図るとともに、将来、社会資本自体にも新技術が実装されることにより、社会資本の新たな価値が発揮されることを期待されます。



「北海道Society5.0構想」で描かれた北海道の未来社会

4. 観光振興と国際交流の拡大

2020年7月にウポイ（民族共生象徴空間）が開設され、2021年7月には北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録されるなど、近年、北海道の歴史・文化への注目が高まっています。また、2023年には、G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合、アドベンチャートラベル・ワールドサミット（ATWS）が北海道で開催される予定です。

国内外に北海道の魅力を発信することで、新型コロナウイルス感染症により減少した観光需要の回復を図り、地域の飛躍の契機となることを期待されています。